

## 定常変種のポストークコレクション（1）

円単位通常切手の定常変種は、手軽なこともあって、たくさんの方が収集を楽しまれていると思います。中には、製造面研究の手がかりとして徹底的に調査されている方もおられます。一方で、全く関心がないか、あえて避けておられる方も知っています。面倒くさい、細かすぎる、視力が悪くなる、・・・いろいろな理由を聞くにつけ、ふと思いついたのが、各切手について1種ずつ「これは」と思われる定常変種を紹介してはどうか、ということでした。ちょうど、定常変種のポストーク的なコレクションを目指す格好になりますが、切り口が変われば、興味のない方でも少しは振り向いてもらえるのではないかと考えた次第です。変種を知らないか、未入手の場合はご容赦いただくこととして、しばらくお付き合いいただければ幸いです。うまくいきそうであれば、円単位通常切手以外にも広げられたら、と思っています。



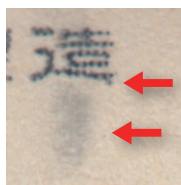
#100

なかなか派手な変種で印刷ミスのようにも見えますが、“白玉2個”として専門カタログにも掲載されている定常変種です。銘⑩で入手したいところですが、単片でも十分に迫力があります。なお、よく知られた“ロングワン”は、あまり見映えないので、残念ながら選外とさせていただきました。この他にも目立つリタッチや大きな変種が多数存在しています。



#86

大きなリタッチです。さすがにリタッチ前のもはありませんが、周囲が白くなっているのもそれと分かります。これも銘⑩での収集が可能です。よく似た例として、おしどり5円のA#84にも印面下辺に大きなリタッチがありますが、シートポジションが近接しており、興味深いところです。



この変種を含むシートの銘版には「造」に突起があり、またグレーの汚れが存在する例が見られます。偶発的に発生したのか、定常変種の一つなのか、今のところ不明です。